# 竜洋海底谷から採取された海底堆積物コア中のタービダイトの対比と堆積間隔

# Correlation and recurrence intervals of turbidite deposition in the Ryuyo Submarine Canyon, off Tokai, Japan

# 池原 研 [1]; 芦 寿一郎 [2]; 入野 智久 [3]; 白井 正明 [4]
# Ken Ikehara[1]; Juichiro Ashi[2]; Tomohisa Irino[3]; Masaaki Shirai[4]

[1] 産総研・地質情報; [2] 東大海洋研; [3] 北大・院地球環境; [4] 東大・海洋研
[1] IGG, AIST; [2] ORI, Univ. Tokyo; [3] EES, Hokkaido Univ.; [4] ORI, Univ. Tokyo

白鳳丸の KH06-3 航海において，東海沖竜洋海底谷の谷底から NSS システムを用いて２本のピストンコア試料が採取された．竜洋海底谷は放棄された海底谷であり，現在は浅海域から粗粒物質が供給される場にない．また海底谷は南海トラフに沿う逆断層である小台場スラストの近傍に位置しており，東南海地震時に近傍で発生する斜面崩壊のよい記録場になっている可能性が高い．採取された２本のピストンコアには多数のタービダイトが挟在している．タービダイトに挟まれる半遠洋性泥中の浮遊性有孔虫を用いた年代測定結果と挟在する火山灰の同定結果から，２本のコアのタービダイトのいくつかが対比できた．また，得られた年代測定値から，この場におけるタービダイトの堆積間隔は 300 － 600 年と推定できる．